

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

令和3年度農作物病害虫発生予察情報について

令和3年度農作物病害虫発生予報第7号を発表したので送付します。

令和3年度農作物病害虫発生予報第7号

令和3年8月16日
徳島県

I. 普通作物
普通期水稻

斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ, ホソハリカメムシ, クモヘリカメムシ等)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第3半旬の水田における生息調査(1地点当たり捕虫網20回振り)では, 24地点のうち7地点で生息を確認した。捕獲地点率が29.2%と, 平年(43.4%)に比べてやや低く, 地点当たりの捕獲虫数は0.6頭と, 平年(1.4頭)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が8月12日に発表した1か月予報では, 気温は平年並か高く, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少ない見込みで, 平年と同様に晴れの日が多いが, 期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が多いと予測されており, 発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 斑点米カメムシ類の生息場所となる周辺雑草を, 水稻出穂の10~15日前までに除去・処分する。しかし, 出穂直前の除草は本田内に斑点米カメムシ類を追い込むことになるので行わない。
- (2) 出穂が早い圃場に集中して飛来する傾向があるので, 周辺雑草地や本田での発生に注意し, 発生を認めたら早急に防除を行う。
- (3) 薬剤散布については各薬剤の登録内容を確認のうえ, 出穂期と乳熟期(出穂後約2週間頃)の2回防除を行う。

II. 果樹
カンキツ

黒点病

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年よりやや多い), 発生程度は「少~中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第3半旬の温州みかん巡回調査では, 8地点のうち5地点で枯枝から黒点病菌の発生を確認した。発生圃場率が62.5%と, 平年(25.0%)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が8月12日に発表した1か月予報では, 気温は平年並か高く, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少ない見込みで, 平年と同様に晴れの日が多いが, 期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が多いと予測されており, 発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 枯れ枝を極力除去する。せん除した枝は園外へ持ち出して処分し, 病原菌密度の低下に努める。

(2)薬剤散布において、散布間隔の目安は降水量200mmまたは1ヶ月とする。

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い), 発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

(1) 8月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が62.5%と、平年(55.0%)並の発生であるが、寄生葉率は9.6%と、平年(7.9%)に比べてやや高い。

(2) 高松地方気象台が8月12日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込みで、平年と同様に晴れの日が多いが、期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が多いと予測されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、葉裏まで薬液がかかるよう丁寧に散布する。

(2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

ナシ

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 8月第2半旬の巡回調査では、発生圃場率が12.5%、発病度が0.1と、平年(48.0%, 0.9)に比べてやや低い。

(2) 高松地方気象台が8月12日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込みで、平年と同様に晴れの日が多いが、期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が多いと予測されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 早期落葉すると樹勢を弱めるので、発生の多い園では収穫後に防除を行う。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや少ない), 発生程度は「多」

2) 予報の根拠

(1) 8月第2半旬の巡回調査では、発生圃場率が75.0%と、平年(68.0%)並の発生であるが、寄生葉率は33.4%と、平年(11.5%)に比べて高い。

(2) 高松地方気象台が8月12日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込みで、平年と同様に晴れの日が多いが、期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が多いと予測されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生の多い園では収穫後に防除を行う。

(2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

果樹共通

果樹カメムシ類(主に、ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ)

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 勝浦町での予察灯調査では、各カメムシ類とも平年に比べて低く推移している。一方、上板町での予察灯調査では、ツヤアオカメムシは、平年並に推移しているが、7月第4半旬及び8月第2半旬に誘殺数が多く認められた。また、チャバネアオカメムシは、平年に比べてやや低く推移しているが、8月第2半旬に誘殺数が多く認められた。(表1)。

表1 予察灯への果樹カメムシ類の誘殺数

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月	半旬	勝浦町			上板町		
		2021年	2020年	平年	2021年	2020年	平年
7	3	0	10	60	0	5	10
	4	3	9	61	122	0	9
	5	6	14	64	7	2	4
	6	27	19	116	5	2	10
8	1	95	6	190	12	1	4
	2	79	8	193	68	14	7
	3	-	16	431	-	10	16
	4	-	22	190	-	12	15

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月	半旬	勝浦町			上板町		
		2021年	2020年	平年	2021年	2020年	平年
7	3	0	31	39	4	26	29
	4	4	21	46	43	20	27
	5	5	12	45	9	18	20
	6	13	41	84	14	37	38
8	1	17	12	86	13	27	15
	2	17	33	125	83	36	19
	3	-	53	122	-	26	32
	4	-	66	166	-	9	26

(2)高松地方気象台が8月12日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込みで、平年と同様に晴れの日が多いが、期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が多いと予測されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行なう。
- (2)夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3)移動性が高いので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

II. その他

- 1)防除にあたっては、圃場をよく観察し、適期を逃さないようにする。
- 2)薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病害虫の発生予察情報，発生状況，防除法等をお知らせしています。

